



小田義生

写真

写真を始めたのは戦後の新制中学時代からで、当時はカメラも不自由で人に借りたりして、地元の風景などから撮り始めました。銀行に勤めだしてマミヤシックスを所持、取引先のご家族など写して喜ばれたものです。本格的にはリタイア後からで、公民館のクラブに入り、特に「はつかいち美術ギャラリー」が出来てからは、近辺公民館のグループとの合同写真展を開催したり、「グループ輪」といった会員を募っての写真展を開催したりしてきました。北海道へは何度か行きましたが、今回その中からよく知られた屈斜路湖の白鳥の迫力ある映像を選んでみました。

杉村恒彦

油彩画



絵は、大学時代美術の授業を受けたのが始まりで、就業後は余り描いていませんが、リタイア後、廿日市市美術協会に入り、市美展や美協展に出品しています。若い頃、建築視察団に応募して欧州をまわる機会があり、特にイタリアなどの歴史的な都市の美観に感銘を受けて、そのうち絵にしたいと思っていました。この欧州の都市景観シリーズは15年前頃から描いた作品で、この頃からマスキングテープを使って精緻な絵を描くようになり、以後、北海道雪景色シリーズ、長崎の教会のある風景シリーズと描いています。最近は北海道十勝平野の緑と日高山地の残雪がつくる風景に魅かれて描いています。

山口祥子

水彩画



絵を始めたのは、高校時代の美術部からです。その後、仕事や結婚を経て、子育てや介護などでずっと中断していましたが、水彩画教室に誘われたのがきっかけでまた絵の世界に戻ってきました。現在所属している水彩画教室はアットホームな雰囲気、庭の花や野菜など絵のモチーフや気候の良い時期には野外スケッチなど描く対象には事欠きません。また、皆で毎年、尾道、竹原、湯来、牛窓などに出かけ、スケッチを楽しんでいます。美術協会では様々なジャンルの方々との出会いがあり、皆さんの作品に感動する毎日です。これからも絵と共に人生を歩んで行けたらいいなと思っています。

山下寿三

写真



廿日市市美術協会に入会して12年経ちましたが、その間ひとつも出品しない幽霊会員でした。昨年、美術協会の手伝いをして欲しいという話があり、9月から理事ということでお世話をしています。写真を撮り始めたのは中学1年の頃、高校時代は一瞬レフで撮っていましたが、本格的に撮り出したのは25歳頃からで古い町並みを撮っていました。当時、親戚が大勢住んでいたブラジルで半年間の撮影三昧の日々は青春の良い思い出です。その時々感じた印象的な事物を撮ることに興味があり、今回の作品はふとした時に綺麗だなと感じた「草の葉」を撮ったもので、「葛」と「ヤブガラシ」の葉です。

中山綏子

陶芸

作品名:「瀬戸の夜明け」「織部茶盃」